

#ワカモノ #リアル

1. 「いま」を共有

交流サイト（SNS）のインスタグラムと違い、「盛る」（見栄えをよくする）ことができないのが特徴だ。

2020年のフランス発祥。瞬く間に世界に広がり、日本でも学生を中心に爆発的にヒットした。

通知はアプリが管理。いつ来るか分からない。早朝の時もある。投稿しないと、フォロワー（登録した友達）の写真を見ることができない。

稚菜は昨年5月にビーリアルを始めた。フォロワーは信頼の置ける友達を中心。毎日の投稿を欠かさない。

寝起きに通知があれば、内向きカメラを手で隠して天井をパシャリ。化粧していない「すっぴん」姿を投稿することも。友達の写真が、湯を入れたばかりのカップ麺だったこともある。

インスタをよく使っていた高

校時代は、写真を厳選し、加工してから投稿していた。ビーリアルを始めた当初は加工できないことに抵抗があったが、使っているうちに、飾らない方が面白くなった。

「いつ通知があるか分からないドキドキ感がたまらない。友達がいま、何をしているか見ると、うれしくなる」

かつて、目の前にいない人との交流は、固定電話が中心だった。

1980年代からのポケベルを経て、90年代後半から携帯電話が一気に普及し、メールが主流に。2010年代からはスマホの所有が広がり、現代はSNSやアプリが主役になった。

「フォロワー」「友達」の数が表示され、これまであいまいだった交友関係は可視化。LINE（ライン）などで、コミュニケーションの経過が記録されることも日常になった。

常にインターネットに接続する社会で、人とのつながり方も形を変えている。

加古川市の女性会社員（23）は、位置情報共有アプリ「who（フー）」を使っている。自分やフォロワーが現在いる場所を、スマホの地図上で互いに知ることができる。

大学生だった3年前、彼氏に使用を誘われたことがきっか

居合わせたみんなと一緒に「ビーリアル」。ポーズをとってパシャリ＝加古川市平岡町新在家、兵庫大



飾らぬ自分

アプリで発信

け。その時は常に情報を発信することが嫌で、断った。その後、周りの友達が使っていたのでダウンロードしてみると、思ったより便利だった。

アルバイトしていた居酒屋では従業員間で使っていた。病気で急な欠勤が出ると、店側はフーで居場所を見て、家にいる人から順番に出勤できないか打診。遠くにいと連絡はなく、その配慮がありがたかった。

フーを使いだしてからは、待ち合わせ時間を細かく連絡しなくなった。相手が移動している場合は、車や電車に乗っていることも把握できる。あとどのくらいで到着しそうなのか、アプリを開けば分かる。

自分の位置情報を隠せる「ゴーストモード」の機能も。居場

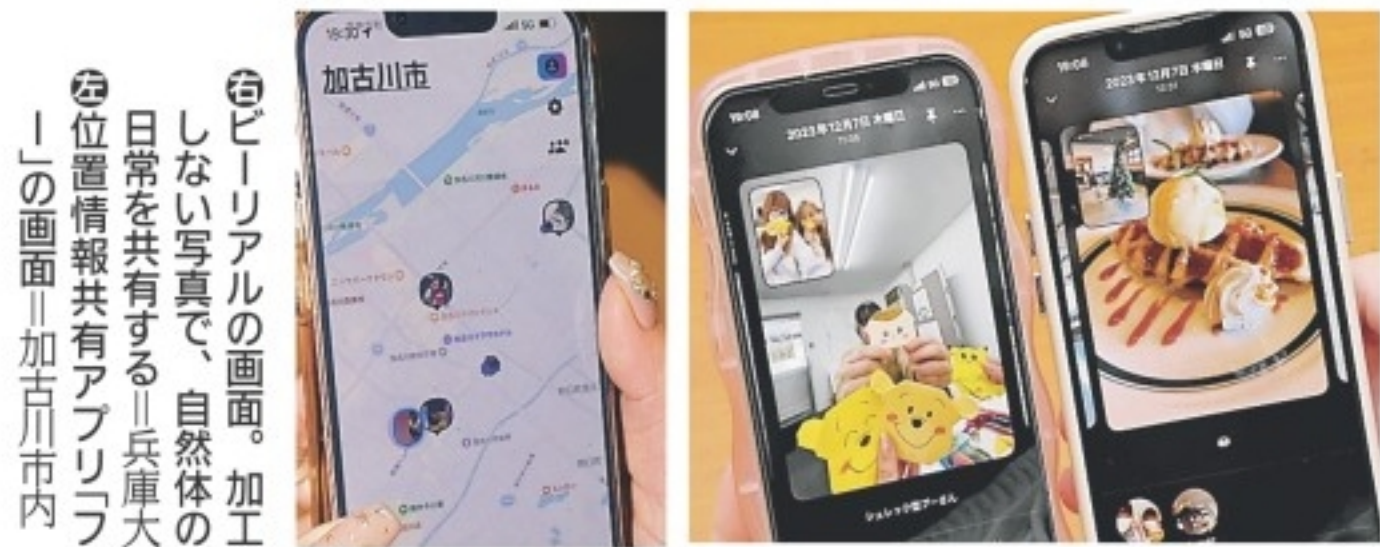
所の表示を動かさないように固定したり、曖昧な位置にしたりと、設定すれば自分の位置を知らせないこともできる。

「昨日、ゴーストになっていたけど何してた？」と聞かないことは、暗黙のマナー。女性が登録しているのは友達ら10人程度。信頼できる人とだけ、位置情報を共有する。

女性は言った。「便利で楽。私にとっては、当たり前のコミュニケーション手段になった」
＝敬称略＝
(田中朋也、児玉美友)

◆
オンラインで「つながりっぱなし」が日常の現代。若者たちの生活スタイルや考え方は変化を続ける。新しい時代を生きる世代の、リアルな姿を追った。

友達・恋人 居場所も把握



①ビーリアルの画面。加工しない写真で、自然体の日常を共有する＝兵庫大の画面＝加古川市内